

# 口から食べる喜び

## 摂食機能療法について

食べることは、生命の維持に必要なだけでなく、食べる楽しみ、食べることを通して行われるコミュニケーションなど、生活の質(QOL)の面でも、重要な意味を持っています。

### 摂食機能療法の目的

安全で楽しい生活ができるように、栄養摂取の方法を確立することを目指します。

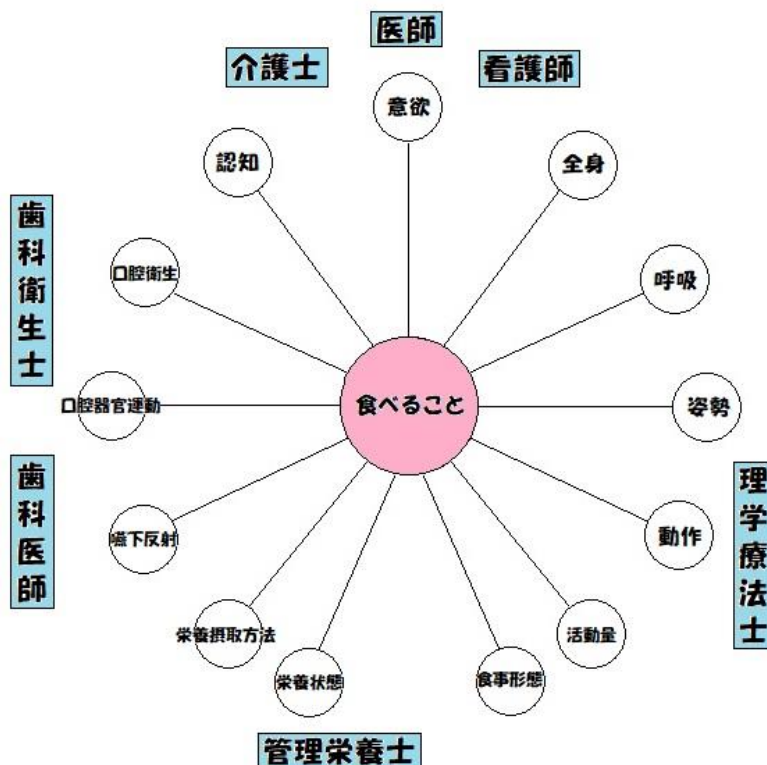
- ・3食、口から食べる
- ・代替手段で栄養管理をして、少しでも口から食べる楽しみを持つ
- ・誤嚥性肺炎を予防して、良好な全身状態で生活すること

### 摂食機能療法の流れ

摂食・嚥下障害は、口や喉の働きだけではなく、身体機能、認知機能、栄養状態、生活背景など様々な要因が影響しています。

そのため、多職種によるチームアプローチが重要です。

当院では、摂食機能療法開始時より、チームでの評価を行い、その方に合わせたリハビリテーションを実施しています。



評価を行い、問題点を把握し、それぞれの職種が専門的なアプローチを行います。

口や喉の運動をする、食べる、といったことだけでなく、持久力をつける、呼吸機能を向上する、楽に座れるようにする、口腔ケアをする、認知機能を向上する、すべてが摂食機能療法につながります。

## 状態に応じた7段階の食形態

常食(形) ↔ 一口大 ↔ 小さめ一口大 ↔ きざみ ↔ きざみとろみ ↔ 極きざみ ↔ ミキサー



常食



刻み食



ミキサー食



ゼリー栄養補助食品

## 看護師による摂食機能療法

口腔内の状態を整えながら、口唇、舌、頬、喉の機能向上を図り、うまく飲み込みができるようにアプローチします。

口腔器官の運動や、呼吸・発声練習、発話練習、などの食べ物を使わない「間接訓練」や、少量の水分やゼリーを飲み込んだり、固いものを咀嚼・飲み込む練習など実際に食べ物を使う「直接訓練」、食事形態や姿勢を調整したり、食べ方の工夫などをする「環境調整」を行います。

唾液を飲み込む、食べ物を食べるといったことは、日常生活での活動やケアが重要です。

摂食・嚥下障害は、肺炎・窒息・低栄養・脱水などの命の危機に直面する問題です。

摂食・嚥下リハビリテーションでは、嚥下機能だけでなく、意識状態・全身状態・認知機能など総合的な評価のもと、訓練を行います。

そのため状態により経口摂取(口から食べる)が難しいと判断されることもあります。

安全な生活を築き、摂食機能療法を進めるためにも、代替栄養(経鼻経管栄養・胃ろうなど)を検討することも必要となります。